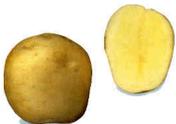


野菜の作業

種まき	定植 (植付け)	栽培のポイント																																														
・ホウレンソウ ・コマツナ ・シュンギク ・ハクサイ ・ダイコン ・カブ ・ など (試行) 秋バレイショの植付けは、標高500mの地帯で8月下旬になります。品種は、休眠の浅いデジマやニシユタカを利用します。 	・ブロッコリー ・キャベツ ・ワケギ ・レタス など	○暑さを乗り切る野菜の管理 ・敷きワラ、こまめな灌水などで土壌水分の急激な変化をさけましょう。 ・夜温を下げるため、かん水とは別に夕方「打ち水」程度の散水を行い、エネルギーの消耗を抑えることも有効です。 ・葉物類は、カルシウム欠乏や大雨による土壌中の窒素不足や根の活力低下をきたしていますので追肥のほか葉面散布を行うと有効です。 ・ハウス内では、遮光ネットなどをかけて温度を下げるとともに、循環扇などにより「そよ風」を送り、蒸散作用を円滑に行わせ、光合成を活発化させる手段も、生育促進・植物体の健全化につながります。 ○主な秋まき野菜の作型と品種																																														
	収 穫																																															
	・ホウレンソウ ・スイカ ・メロン ・スイートコーン ・ピーマン ・キュウリ ・トマト ・ユウガオ ・カボチャ ・オクラ など多数																																															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>播種期</th> <th>定植期</th> <th>主な品種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハクサイ</td> <td>8月中旬まで</td> <td>9月中旬まで</td> <td>黄ごころ65</td> </tr> <tr> <td>キャベツ</td> <td>7月下旬まで</td> <td>8月中旬まで</td> <td>若峰、初秋</td> </tr> <tr> <td>ブロッコリー</td> <td>7月中旬まで</td> <td>8月上旬まで</td> <td>ピクセル</td> </tr> <tr> <td>レタス</td> <td>8月中旬まで</td> <td>9月上旬まで</td> <td>極早生シスコ</td> </tr> <tr> <td>ワケギ</td> <td>9月上まで</td> <td>9月下旬まで</td> <td>青帝</td> </tr> <tr> <td>ホウレンソウ</td> <td>9月中旬まで</td> <td></td> <td>オーライ・ソレン</td> </tr> <tr> <td>コマツナ</td> <td>9月中旬まで</td> <td></td> <td>楽天</td> </tr> <tr> <td>ダイコン</td> <td>8月下旬まで</td> <td></td> <td>耐病総太り, YRくらま</td> </tr> <tr> <td>カブ</td> <td>8月下旬まで</td> <td></td> <td>耐病ひかり</td> </tr> <tr> <td>タマネギ</td> <td>9月上旬まで</td> <td></td> <td>OK黄、泉州黄色</td> </tr> </tbody> </table>	種類	播種期	定植期	主な品種	ハクサイ	8月中旬まで	9月中旬まで	黄ごころ65	キャベツ	7月下旬まで	8月中旬まで	若峰、初秋	ブロッコリー	7月中旬まで	8月上旬まで	ピクセル	レタス	8月中旬まで	9月上旬まで	極早生シスコ	ワケギ	9月上まで	9月下旬まで	青帝	ホウレンソウ	9月中旬まで		オーライ・ソレン	コマツナ	9月中旬まで		楽天	ダイコン	8月下旬まで		耐病総太り, YRくらま	カブ	8月下旬まで		耐病ひかり	タマネギ	9月上旬まで		OK黄、泉州黄色	ホウレンソウ、コマツナはトンネル、ハウス利用で更に遅まきできる。	
種類	播種期	定植期	主な品種																																													
ハクサイ	8月中旬まで	9月中旬まで	黄ごころ65																																													
キャベツ	7月下旬まで	8月中旬まで	若峰、初秋																																													
ブロッコリー	7月中旬まで	8月上旬まで	ピクセル																																													
レタス	8月中旬まで	9月上旬まで	極早生シスコ																																													
ワケギ	9月上まで	9月下旬まで	青帝																																													
ホウレンソウ	9月中旬まで		オーライ・ソレン																																													
コマツナ	9月中旬まで		楽天																																													
ダイコン	8月下旬まで		耐病総太り, YRくらま																																													
カブ	8月下旬まで		耐病ひかり																																													
タマネギ	9月上旬まで		OK黄、泉州黄色																																													

ホウレンソウの高温期のは種方法（催芽促進処理と注意点）

ホウレンソウの種子には休眠があり、採種直後の種子は発芽しにくくなります。これは、種子が生育し成熟していくに伴って自然に休眠するために起こる現象で、一時休眠といわれます。

また、種子がある不利な条件下におかれた場合にそれに耐えるために休眠に入ってしまうことがありこれを二次休眠といいます。春まき栽培では前年度に採種した種子を使用するので、種子に起因する発芽率低下の問題は少ないのですが、夏まき作型などで新種子を用いた場合は発芽率の低下が見られることがあり、休眠打破の催芽促進処理が有効となります。この休眠物質は種子の硬い果皮に含まれており、新種子は3ヶ月程度の休眠期間があります。

夏まき栽培では、一斉に発芽させることが最も大切となり、そのためには良い種子を選ぶことと催芽処理が必要となり、高温の7～8月まきではその効果が大きくなります。

まず、種子を軽く水洗い後、半日から1日半水に漬けます（水は1～2回交換）。これにより休眠物質を洗い流します。（この段階では種は、高温により二次休眠に誘導されてしまう場合がある。）

水に漬けた種子を布切れ等に広げ水を切り、湿った布切れに種子を包み、さらにビニール袋に入れ、5～10の冷蔵庫（野菜室）に2～5日程度入れ、種子から根が1mm程度出たところでは種します。

芽の出すぎた種子は幼根を傷めやすく絡まって労力もかかってしまい、特に機械まきする場合は十分に注意が必要となります。

また、催芽種子を乾燥あるいは高温多湿条件の畑にまくと、発芽しかかった芽が障害を受けたり枯死し、かえって逆効果になってしまうことがありますので、前もって畑の条件を良くしておくことが大切となります。

（注）なお、この方法は「コート種子」や「ネーキッド種子」などには適用できませんので注意してください。「ネーキッド種子」とは外側の殻をとった種子のことです。

パンジー・ビオラの育苗方法（年内からの出荷を目指して）

パンジー・ビオラは共にスミレ科スミレ属の多年草でヨーロッパの野生の「スミレ」から品種改良されたものです。花径が5 cm 以上のものをガーデンパンジー、それよりも小さいものをタフテッドパンジーまたはビオラと呼んでいるようです。秋から春にかけて花壇を彩る代表的な花です。

パンジーは基本的に涼しい気候を好むのでハウス内の温度はできるだけ下げないように心掛け、秋出荷では徒長しやすいので風通しなどを良くし、締まった苗づくりを目指します。

作型としては、7月末～9月がは種時期で、秋出荷は10月中旬から可能となります。

は種は、よく消毒された専用の培養土を使用し、288穴か406穴のトレーには種します。

発芽適温は18～20 程度であり、7～10 日程で発芽します。

そして、育苗期間25 日程の本葉2～3 枚程度の時期に鉢上げを行います。

生育適温は、15～20 が理想であり、30 以上は避けるようにし、特に暑い夏期は立枯れ病も出やすくなるので寒冷紗を用い、気温を下げるとともに風通しの良い環境での育苗・栽培管理に心掛けましょう。



農業豆知識

タマネギの早晩生と栽培のポイント

タマネギの作型は、多くの地域で行われている「秋まき栽培」が一般的ですが、このほか北海道を主体とする「春まき栽培」があります。

同じ秋まき栽培でも暖地での早生品種を用いた3～4月に収穫する「早だし栽培」、中生品種を用いて5～6月に青切りを主体に出荷する最も一般的な「普通栽培」、中・晩生品種を用いて6～7月に収穫し貯蔵出荷を主体にする「貯蔵栽培」に分けることができます。

県内の栽培は秋まき栽培で、収穫期が6月中旬から7月上旬にかけての作型となっていますが、寒地では春まき栽培の導入も可能です。

なお、直売を考えた場合には、「貯蔵型」の品種を選ぶことが重要になると思います。

タマネギの貯蔵には、病害がないこと、よく乾燥させること、風通しの良いところで保管するなどの条件がありますが、貯蔵可能期間は肥大時に蓄積された「糖分」の量により変わり、糖はタマネギが肥大完熟するにつれ多く蓄積されますが、逆に長い貯蔵期間中には呼吸により徐々に消費され、一定量を下回ると萌芽が始まってしまいます。（いわゆる芽が出る状態になる）

なお、糖を多く蓄積したタマネギは病害抵抗性物質も多くなると言われており、気象条件や肥料、防除など上手に栽培すれば、貯蔵型のタマネギは長期間の保存が可能となります。

長期貯蔵に適した品種としては、中晩生品種から選定します。（ネオアース、アタックなど）

熟期は遅くなりますがじっくり育ったタマネギは長期貯蔵が可能となります。また、もう一つの貯蔵性を高めるポイントとしてチッソ肥料の量や追肥の時期があります。多肥栽培や遅い時期での追肥は、病気になるやすかったり、軟らかい玉になったりと貯蔵性の悪いものとなってしまいますので、追肥時期は、寒冷地でも遅くとも4月中旬までとし、2月中旬頃から2～3回に分けて行い、生育後半まで肥効が残らないよう窒素をやや控えめにするのがポイントとなります。

ダイコンの用途と主な品種（例）

用途	主な調理・使用	品種・会社名	早晩生	作 型	適 地
生食	サラダ、刺身のツマ、大根おろし	MSR-896(武蔵野種苗)	早生	春まき	暖地
		RA-131(雪印種苗) 市の宮(渡辺採取場)	晩生 中早生	トシ春まき 秋まき	平坦・暖地 高冷・平坦地
煮食	煮物、おでん	おでん(山陽種苗)	晩生	春夏まき、春秋まき	高冷・平坦地
		TSX-330(トキタ種苗)	早生	秋まき、	平坦・暖地
漬物	たくあん、酢漬け 粕漬け、味噌漬け	香漬の助(トーホク)	早生	秋まき	高冷・平坦・暖地
		干し理想(タキイ種苗)	中生	秋まき	平坦・暖地
		寒仕込み(カネコ種苗)	晩生	秋まき	平坦・暖地
薬味	辛味大根	辛吉(サカタのタネ)	早生	秋まき	高冷・平坦・暖地
		辛之助(タキイ種苗)	早生	秋まき	高冷・平坦・暖地
		味辛大根(トーホク)	晩生	秋まき	平坦・暖地

* グリーンレポート 474(2008 12月号)引用、このほか「生食・煮食」「生食・漬物」などの兼用向けあり。

あさつゆ連絡先 電話:FAX 41-1062

技術事項作成協力：上小農業改良普及センター
地域係 中澤普及指導員（25-7156）